

① 「食の拠点」とかち強化プロジェクト

十勝連携地域

【概要・目的】

生産基盤の強化による食料生産・供給拠点の形成や担い手の育成・確保などを図り、我が国における食料供給地域としての地位をさらに揺るぎないものにするともに、こうした十勝の優位性を活かし、農商工連携等による十勝産食材の付加価値向上や海外輸出も含めた販路の拡大を進め、強いブランド力をもった食産業を構築していきます。

【施策展開】

これまでの主な取組実績

■ 安定的な食料の生産・供給拠点の形成

【経営体質強化】

- ・高品質・高付加価値化低コスト化のための施設投資
- ・営農戦略に基づく高収益化取組の総合的な支援
- ・バイオガスプラントの生産物（消化液）の畑作利用の検討
- ・「十勝バイオガス関連事業推進協議会」への参画
- ・アライグマ農業被害対策の実施など

【人材育成】

- ・農業高校と連携した就農促進
- ・新規就農者等を対象としたゼミナール等の開催

■ 豊富な農水産物等を活かしたブランド力のある商品の開発や海外を視野に入れた販路拡大

【十勝ブランド化】

- ・十勝製品の知名度向上やブランド化推進のため、業界団体等と連携したフェア等の開催
- ・インバウンドに向けた効果的な販売モデルの実施
- ・「ワインアカデミー十勝」の設立とセミナーの開催

【大都市圏消費拡大】

- ・包括連携協定締結企業等との連携及びPR
- ・専門学校等の食に関する研修旅行誘致など

【ネットワーク構築】

- ・6次産業化サポートセンターとの連携
- ・国際水準GAPの実施、第三者認証の推進

令和元年度の主な取組

■ 安定的な食料の生産・供給拠点の形成

【経営体質強化】

- ・高品質・高付加価値化や低コスト化のための施設整備支援
- ・経営高度化、畜産環境対策への支援
- ・バイオガスプラントから生産される消化液の効果的還元手法の検討
- ・「十勝バイオガス関連事業推進協議会」への参画
- ・アライグマ捕獲技術研修会の開催

【人材育成】

- ・農業高校と連携した就農促進
- ・雇用労働力確保・定着に向けたコーチング研修の開催

■ 豊富な農水産物等を活かしたブランド力のある商品の開発や海外を視野に入れた販路拡大

【十勝ブランド化】

- ・十勝製品の知名度向上やブランド化の推進のため業界団体等と連携したフェア等の開催
- ・首都圏において包括連携協定企業等と連携し、イベント等への出展を通して十勝の食や観光を広くPR
- ・十勝製品の国内外での販路拡大のため、道内外でのフェア、セミナー、商談会ほか、ブドウ栽培・醸造技術向上等のセミナーを開催

【ネットワーク構築】

- ・6次産業化サポートセンターとの連携
- ・国際水準GAPの実施、第三者認証の推進

今後の取組を進める上での主な課題

■ 安定的な食料の生産・供給拠点の形成

- ・地域の営農戦略に基づく施設、機械の整備を図っていく上で、要望に応じた国費予算の確保
- ・産地の高収益化に向けた地域の取組の支援
- ・酪農畜産生産基盤強化に向けた取組の支援
- ・農業者の取組の定着、拡大、消費者の認知度向上、理解の促進に向け、継続した取組※
- ・バイオガスプラントの適切な運営方法や生産物（消化液）の畑作利用を含めた活用方法の確立
- ・効果的なアライグマ捕獲手段の確立
- ・一次産業に対する理解促進など若者が職業として1次産業を選択できる環境づくり
- ・多様な人材の農業参画に向けた取組への支援
- ・青年農業者の活動の活発化や相互の技術研鑽を図るなどの情報交流機会の充実

■ 豊富な農水産物等を活かしたブランド力のある商品の開発や海外を視野に入れた販路拡大

- ・十勝の生産者、民間企業、関係団体等が一体となれるような十勝ブランドの確立に継続した取組
- ・インバウンド需要を確実に取り込む取組のほか、十勝のワイン関連産業の強化
- ・十勝産品や十勝ブランドの更なるPR
- ・国際水準GAPの実施や第三者認証取得の推進

※YES!Clean登録：現状395集団 ⇒ 目標R1年度 480集団
YES!Clean認知度：13%（「平成24年度環境調和型」農産物可能性調査）

【KPIの状況】

	H26(基準)	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標)
地域の認証・登録制度の認証・登録品目数	179品目 (H27)	179品目 <進捗率> 90%	174品目 <進捗率> 87%	170品目 <進捗率> 85%	161品目 <進捗率> 81%		200品目
食品工業の付加価値額	876億円 (H26)	1,042億円 <進捗率> 104%	963億円 <進捗率> 96%	963億円 <進捗率> 96%	968億円 <進捗率> 97%		1,002億円

「食の拠点」とかち強化プロジェクト

十勝連携地域

【施策展開】

令和2年度の主な取組

■ 安定的な食料の生産・供給拠点の形成

【経営体質強化】

- ・高品質・高付加価値化や低コスト化のための施設整備支援
- ・経営高度化、畜産環境対策への支援
- ・バイオガスプラントから生産される消化液の効果的還元手法の検討
- ・「十勝バイオガス関連事業推進協議会」への参画
- ・アライグマ対策会議の開催による市町村等との情報共有(道(振興局))
- ・市町村が実施するアライグマ防除従事者研修会への支援(道(振興局))
- ・アライグマ捕獲用わなの市町村への貸出(道(振興局))

【人材育成】

- ・農業高校と連携した就農促進

■ 豊富な農水産物等を活かしたブランド力のある商品の開発や海外を視野に入れた販路拡大

【十勝ブランド化】

- ・十勝産品の知名度向上やブランド化の推進のため業界団体等と連携したフェア等の開催
- ・十勝ブランド登録品の普及支援
- ・首都圏において包括連携協定企業等と連携し、イベント等への出展を通して十勝の食や観光を広くPR
- ・十勝産品の国内外での販路拡大のため、道内外でのフェアの開催、輸出に関するセミナー、輸出商社とのマッチングの実施
- ・インバウンド客の消費を取り込むためのセミナー等を実施
- ・十勝のワイン産業の強化に向け『ワインアカデミー十勝』等を開催

【ネットワーク構築】

- ・6次産業化サポートセンターとの連携
- ・国際水準GAPの実施、第三者認証の推進

② 「ひがし北海道」広域観光プロジェクト

十勝・オホーツク・
釧路・根室連携地域

【概要・目的】

北海道新幹線の開業や北海道横断自動車道(道東道)の更なる延伸、外国人観光客の増加や旅行形態の多様化といった様々な時代の流れを的確に捉え、道東の優れた自然環境をはじめとする多彩な観光資源、広大な畑作酪農地帯や豊富な漁業資源など各地域個々の魅力を一層向上させるとともに、道東4地域間連携による相乗効果を高め、道東地域全体への誘客促進を図っていきます。

【施策展開】

これまでの主な取組実績

■ 「ひがし北海道」の一体的な観光ブランドづくりによる誘客促進

【道東関係者ネットワーク構築】

- ・道東4振興局連携推進検討会の開催など

【地域資源の活用や情報発信】

- ・国内外等における観光プロモーションの実施
- ・国内富裕層向けの長期ツアー実施や滞在型観光モデルの構築など

【観光客誘致のための地域連携】

- ・広域周遊ルート形成促進事業事務局の連携調整

■ 交通ネットワークを利用した地域間連携の強化

【道東交通モード間・事業者間連携促進】

- ・「シームレス交通戦略推進会議」の設置・開催
- ・JRから路線バスへ利用促進の円滑化

【ひがし北海道5空港の連携強化】

- ・路線維持プロモーションや航空会社や国等への要請

【高規格道路の利用促進】

- ・全線早期完成の要請(期成会重点要望事項)

【新幹線効果の道東への波及推進】

- ・利用促進に向けた気運醸成を図る事業の実施
- ・新幹線インスタグラムフォトコンテストの開催など

令和元年度の主な取組

■ 「ひがし北海道」の一体的な観光ブランドづくりによる誘客促進

【道東関係者ネットワーク構築】

- ・道東4振興局連携推進検討会の開催など

【ひがし北海道ブランド発信】

- ・NHK連続テレビ小説「なつぞら」を最大限活用の上、関西・首都圏の百貨店等での物産展において観光資源のPRなど
- ・十勝管内のインスタ映えするスポットを取りまとめたマップ等の作成、SNSによる情報発信・拡散キャンペーンなど

【観光客誘致のための地域連携】

- ・広域周遊ルート形成促進事業事務局の連携調整など

■ 交通ネットワークを利用した地域間連携の強化

【道東交通モード間・事業者間連携促進】

- ・「シームレス交通戦略推進会議」の設置・開催
- ・JRから路線バスへ利用促進の円滑化

【ひがし北海道5空港の連携強化】

- ・路線維持プロモーションや航空会社や国等への要請

【高規格道路の利用促進】

- ・全線早期完成の要請(期成会重点要望事項)

【新幹線効果の道東への波及推進】

- ・利用促進に向けた気運醸成を図る事業の実施

今後の取組を進める上での主な課題

■ 「ひがし北海道」の一体的な観光ブランドづくりによる誘客促進

- ・道内の観光入込数が道央圏に集中していることから※1、誘客の更なる促進に向けて4地域一体で取り組むほか、更なる効果を求めて、プロモーションの手法等の検討や再構築
- ・十勝の観光入込客数の宿泊客や道外客の割合は、道内他地域と比較すると、低い傾向にあることが課題となっているため※2、十勝の潜在的な観光の魅力を顕在化させ、十勝の知名度アップをはじめ、誘客や長期滞在等の促進に向け、地域一体となった取組が求められる

■ 交通ネットワークを利用した地域間連携の強化

- ・外国人観光客に向けた案内表示等の基盤整備と多言語化
- ・道内空港の一括民間委託の動向把握と調整
- ・道東道の全線早期開通へ向けた地域全体の連携
- ・道南から道東への二次交通の検討

※1道央55.4% 道東4振興局19.9%(H30年度)

※2宿泊客の比率: 全道18.8% 十勝16.7%
道外客の比率: 全道32.0% 十勝25.9%(H30年度) 以上、道調べ

【KPIの状況】

	H26(基準)	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標)
道東地域への観光入込客数	2,620万人 (H25)	2,826万人 <進捗率> 95%	2,704万人 <進捗率> 91%	2,948万人 <進捗率> 99%	2,900万人 <進捗率> 97%		2,987万人 (道東4振興局)
		1,035万人 <進捗率> 98%	956万人 <進捗率> 91%	1,042万人 <進捗率> 99%	1,033万人 <進捗率> 99%		1,046万人 (十勝地域)

② 「ひがし北海道」広域観光プロジェクト

十勝・オホーツク・
釧路・根室連携地域

【施策展開】

令和2年度の主な取組

■「ひがし北海道」の一体的な観光ブランドづくりによる誘客促進

【道東関係者ネットワーク構築】

- ・道東4振興局連携推進検討会の開催（道（道東4振興局））

【観光客誘致のための地域連携】

- ・道東へのさらなる誘客促進に向け、令和2年1月より施設運営事業が開始された道内7空港の一括民間委託の動向に注視し、今後の各空港における事業について情報収集する（道（道東4振興局））
- ・道央圏において、道央圏から道東地域への誘客促進のためのプロモーションを実施（道（道東4振興局））
- ・道東地域への誘客促進のため、道東4振興局が連携し、道外において合同観光プロモーションを実施（道（道東4振興局））
- ・広域観光周遊ルート形成計画は、平成31（令和元）年度をもって計画期間が終了するが、各地域の行政や観光事業者などが連携し、地域内の関係者による合意形成を図る場として存続する地域部会の事務局として連携調整を実施（道（道東4振興局））

■交通ネットワークを利用した地域間連携の強化

【地域資源の活用や情報発信】

- ・「シームレス交通戦略推進会議」の開催・会議での議論を踏まえたモデル事業の実施
- ・JRから路線バスへの円滑利用促進など

【高規格道路の利用促進】

- ・期成会の重点要望事項として全線早期完成の要請

【新幹線効果の道東への波及推進】

- ・道民利用促進の気運醸成を図る事業の実施など

③ 「次世代先進産業」とかちチャレンジプロジェクト

十勝連携地域

【概要・目的】

道内有数の賦存量を誇るバイオマス資源を活かした再生可能エネルギー等の利活用による新たな産業の創出や農業・農村の活性化、今後成長が期待される航空宇宙関連分野や大規模経営が展開されている十勝の農業におけるICT化の取組など、こうした十勝の優位性を活かした先進的な取組を一層促進することにより次世代に向けて先駆的で魅力ある地域づくりを進めます。

【施策展開】

これまでの主な取組状況

- 豊富な地域資源を活かした再生可能エネルギー等の導入促進
 - 【バイオガス利活用の調査研究等】
 - ・「十勝バイオガス関連事業推進協議会」への参画
 - 【再生可能エネルギー情報発信】
 - ・パンフレットの作成、HPによる公開やイベントでの配布等
 - ・バイオマスアドバイザー派遣事業の実施など
 - 【新エネルギーを担う人材、事業体育成】
 - ・帯広高専(協会認定研修機関として道内初)のPR
 - ・人材事業体の育成など
 - 【水素エネルギーの利活用促進】
 - ・鹿追町水素エネルギー研究会へ参加
 - ・市町村・事業者からの相談対応など
- 新たな価値を生み出す科学技術などの活用
 - 【大樹町多目的公園の効果的活用】
 - ・航空宇宙ビジネスへの理解促進やセミナーの実施
 - 【農業ICT化の取組】
 - ・トラクターの自動操舵・可変施肥システム導入促進
 - ・女性農業者等へのスマート農業技術の理解促進
 - 【地域材のブランド化】
 - ・SGEC認証制度*に関する勉強会の実施
 - ・木材加工施設整備に対する支援や地域材の普及PR

令和元度の主な取組

- 豊富な地域資源を活かした再生可能エネルギー等の導入促進
 - 【バイオガス利活用の調査研究等】
 - ・「十勝バイオガス関連事業推進協議会」への参画
 - 【再生可能エネルギー情報発信】
 - ・「バイオガス取り組みマップ」(平成30年度作成)の活用による、バイオガス利活用促進の地域住民・関係機関への啓発
 - ・環境イベントやパンフレット、ホームページ等を通じて、バイオガス利活用に関する現状や取組などを発信
 - ・バイオマスに関する相談対応の実施
 - 【新エネルギーを担う人材、事業体育成】
 - ・帯広高専(太陽光発電協会認定研修機関)のPRなど
 - 【水素エネルギーの利活用促進】
 - ・鹿追町水素エネルギー研究会に参加
 - ・市町村・事業者からの相談対応など
- 新たな価値を生み出す科学技術などの活用
 - 【大樹町多目的公園効果的活用】
 - ・関係機関と連携し、航空宇宙関連ビジネスの理解促進等のセミナーの実施など
 - ・宇宙関連産業推進室の設置
 - 【農業ICT化の取組】
 - ・女性農業者等へのスマート農業技術の理解促進
 - 【地域材のブランド化】
 - ・SGEC認証材を使用した森林組合事務所を活用した普及啓発

今後の取組を進める上での主な課題

- 豊富な地域資源を活かした再生可能エネルギー等の導入促進
 - ・新たなバイオガスプラントの整備では、送電網容量の問題で国の固定価格買取制度が利用できない
 - ・再生可能エネルギーに関する情報が少なく、事業者や住民の理解が不十分。
 - ・道立帯広高等技術専門学院は受講希望ニーズに対応した内容としていくことが重要
 - ・水素エネルギー普及に向け、実証実験を通じた利活用検討や水素社会実現への住民理解や気運醸成など
- 新たな価値を生み出す科学技術などの活用
 - ・十勝管内におけるこれまでの宇宙関連の取組を、地元気運醸成を含め、より効果的な実施と支援
 - ・農業の大規模化に伴う一層の高度化・省力化技術
 - ・地域や個々の経営状況に応じたスマート農業技術の普及
 - ・農村地域における高速通信網の整備
 - ・SGEC認証材の安定的な供給に向けた体制づくりを推進と同制度に関する一般消費者の理解の浸透

【KPIの状況】

*森林認証制度の一つ。「一般社団法人緑の循環認証会議」が管理・運営。十勝管内では「とかち森林認証協議会」や道有林(十勝管理区)などが取得。

	H26(基準)	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標)
新エネルギーの導入状況(発電分野の設備容量)	117,809kW (H26)	173,522kW <進捗率> 68%	189,846kW <進捗率> 75%	211,404kW <進捗率> 83%	224,431kW <進捗率> 88%		253,846kW
先進技術関連事業所立地数	13件 (H26)	13件 <進捗率> 76%	13件 <進捗率> 76%	13件 <進捗率> 76%	13件 <進捗率> 76%		17件

③ 「次世代先進産業」とかちチャレンジプロジェクト

十勝連携地域

【施策展開】

令和2年度の主な取組

■ 豊富な地域資源を活かした再生可能エネルギー等の導入促進

【バイオガス利活用の調査研究等】

- ・「十勝バイオガス関連事業推進協議会」への参画
- ・バイオガス利活用に関する取組を、地域・住民・関係機関への発信（振興局）
- ・家畜ふん尿由来水素を利用した水素サプライチェーン実証事業や水素イノベーション推進協議会等による、水素の利活用に関する情報収集と、地域への情報提供（振興局）
- ・バイオガスや水素エネルギーの利活用に関する、市町村や管内事業者からの相談対応（振興局）

■ 新たな価値を生み出す科学技術などの活用

【大樹町多目的公園効果的活用】

- ・関係機関と連携し、航空宇宙関連ビジネスの他産業への波及を促す取組等を実施するとともに、各種イベントにおいて十勝の航空宇宙関連の取組のPRを実施（道（振興局）、関係機関）

【農業ICT化の取組】

- ・スマート農業技術の効果的活用による労働力削減や省力化推進

【地域材のブランド化】

- ・とかち森林認証協議会の会員等を対象とした勉強会を実施
- ・SGEC認証制度に関する理解の浸透を図るための普及啓発活動を実施
- ・公共土木工事及び公共施設等でのSGEC認証材使用に向けた地域の取組に対して支援
- ・木材加工施設や高性能林業機械等の整備に対する支援
- ・十勝産木材の住宅分野での利用を拡大するための普及啓発活動を実施

④ 「多様な人材の活躍」とかち支援プロジェクト

十勝連携地域

【概要・目的】

女性の就業率の高さなど十勝の地域特性を踏まえた女性の社会進出や起業化への支援、また、50代から60代のシニア層の転入が石狩地域に代表される都市部に比べ少ないという地域の特徴を捉え、アクティブシニアと言われる健康で活動的なシニア層をターゲットにした移住・交流の促進により、若い世代はもとより地域の産業・社会を支える女性やシニア世代を含めた幅広い層の人材を育成・確保するための取組を進めます。

【施策展開】

これまでの主な取組実績

- 女性のキャリアアップや社会進出の促進に向けた取組
 - 【女性のキャリアデザイン支援とネットワークづくり】
 - ・女性活躍促進企業等の情報発信
 - ・異分野で活躍する女性の交流会を開催
 - 【女性視点ビジネスモデル創出】
 - ・ビジネスモデル支援セミナー・ワークショップ開催
 - 【女性農業者活躍場づくり支援】
 - ・次世代リーダー育成のためのセミナー等開催
 - ・スマート農業理解のための研修・イベント開催
 - 【子育て環境整備】
 - ・施設型給付費用等の支給費用一部負担
 - 【人材活躍等】
 - ・「人生劇場紙芝居」上演会開催
 - ・子ども食堂運営者との意見交換会開催など
- アクティブシニアをターゲットにした移住・交流の推進
 - 【ニーズ等の把握】
 - ・ニーズ調査や学びのメニューに関する調査実施
 - 【メニュー開発・人材育成】
 - ・体験ツアー実施や「生涯活躍かみしほろ塾」開校
 - 【情報発信】
 - ・動画、Web等によるPRやSNSによる情報発信など

令和元年度の主な取組

- 女性のキャリアアップや社会進出の促進に向けた取組
 - 【女性農業者活躍場づくり支援】
 - ・女性農業者の次世代リーダー育成のため研修等の開催
 - 【人材活躍等】
 - ・障がい者に係る「人生劇場紙芝居」の制作・上演による民間企業等への障がい者雇用の普及啓発
 - ・障がいの特性に応じた衣服を制作できる人材の育成や障がい者ファッションショーの開催
 - ・子どもの貧困について地域住民の理解促進を図るため、子ども食堂の実践者等を招聘しフォーラムを開催
- アクティブシニアをターゲットにした移住・交流の推進
 - 【ニーズ等の把握】
 - ・自町に特化したニーズ調査(6町)
 - 【ネットワーク構築】
 - ・「十勝アクティブシニア移住交流促進部会」開催など
 - 【メニュー開発・人材育成】
 - ・育成セミナー等の開催や「生涯活躍かみしほろ塾」実施
 - 【情報発信】
 - ・動画、Web等によるPR
 - ・豊富な移住体験メニューや受入体制整備についてのプロモーションの実施
 - ・フェア等やSNSによる情報発信（町）など

今後の取組を進める上での主な課題

- 女性のキャリアアップや社会進出の促進に向けた取組
 - ・女性活躍促進のため、十勝で活躍する女性の先進事例の情報発信
 - ・管内で活躍する女性農業者やそのグループを中心とした、次世代につながるリーダー育成
 - ・地域の多様な人材が、年齢、障がいの有無などの事情にかかわらず、周囲の共感を得ながら、誇りを持って暮らし続けることができる地域社会の形成及びそれを支える人材の育成
 - ・子ども食堂の運営には、ボランティアや食材の確保、地域住民の理解
- アクティブシニアをターゲットにした移住・交流の推進
 - ・市町村レベルにおけるニーズの把握
 - ・事業の着実な推進のため、管内市町村、関係団体、民間事業者等との一層の連携・協力

【KPIの状況】

	H26(基準)	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標)
女性キャリアデザインロールモデル輩出数(累計)		8件 <進捗率> 16%	21件 <進捗率> 42%	30件 <進捗率> 60%	36件 <進捗率> 72%	52件 <進捗率> 104%	50件 (R1)
ちょっと暮らし滞在日数	7,787日 (H26)	7,681日 <進捗率> 65%	9,637日 <進捗率> 82%	10,456日 <進捗率> 89%	12,372日 <進捗率> 105%		11,758日

④ 「多様な人材の活躍」とかち支援プロジェクト

十勝連携地域

【施策展開】

令和2年度の主な取組

■ 女性のキャリアアップや社会進出の促進に向けた取組

【女性農業者活躍場づくり支援】

- ・女性農業者の次世代リーダー育成のため研修等の開催

【人材活躍等】

- ・東京パラリンピックの開催を契機に、障がい特性に配慮した設備等を備えた温泉や乗馬などのコンテンツを広く情報発信し、障がいのある方などを十勝に呼び込む。
- ・企業等に食品の寄付など、子ども食堂への協力を呼びかけるとともに、子ども食堂実践者等を招いてフォーラムを開催し、子ども食堂への地域住民や企業・団体の理解をよりいっそう促進する。
- ・障がいのある人となない人が、ともに誇りを持ち、潤いと活力ある地域社会を形成していく機運を高めるため、「紙芝居」をツールとして障がい者雇用に対するいっそうの理解促進と受け入れ体制の充実を図る。

■ アクティブシニアをターゲットにした移住・交流の推進

【ニーズ等の把握】

- ・関係機関と連携した継続的なニーズ把握の実施(道(振興局))

【メニュー開発・人材育成】

- ・管内移住定住関係の会議体において、構成員各位の取組状況や管内共通の課題・現状等について情報共有の実施(道(振興局)、管内市町村、民間)
- ・管内学びや体験メニュー等の拡充(管内市町村、民間)

【情報発信】

- ・地方創生関係交付金により作成したWebサイト及びPR動画について、シニア層に対して効果的に活用(道(振興局))
- ・市町村連携による学びや体験メニュー、移住環境等といった受け入れ体制の充実ぶりをPR(道(振興局)、管内市町村、民間)
- ・東京交通会館内の「ふるさと回帰支援センター」における効果的な情報発信、プロモーションを実施(道(振興局)、管内市町村、民間)